

優れた樹脂加工技術力で高分子化学の新しい道を開拓する

富士高分子株式会社 京都府城陽市

富士高分子株式会社は、NASA（アメリカ航空宇宙局）が宇宙ロケットの素材として採用したジアリルフタレート（通称 DAP）樹脂を“DAP 樹脂化粧板”として、初めて実用化に成功した。DAP 樹脂は、シックハウス症候群の原因となる有害なガスを発生させないことから、住宅関連商品、住宅・自動車の内装材、楽器など幅広い分野に使われている。

同社の DAP 製品の国内シェアは 70% を占めており、業界のリーディングカンパニーとして成長を続けている。同社の強みは永年培ってきた含浸技術とプレス技術。さらに少量多品種生産や短納期にも応える柔軟な生産体制を整えている点で日本での同社の優位性は揺るがない。田代社長は創業当初からグローバル指向であった初代社長の想いを引継ぎ、さらなる発展のために再度海外に飛び出すことを目指す。

会社概要



会社名：富士高分子株式会社
所在地：京都府城陽市寺田大谷 135-1
電話：0774-53-3131
FAX：0774-55-2564
設立：1966（昭和 41）年
代表者：代表取締役社長 田代 加平
資本金：3,000 万円
従業員：150 名
事業内容：DAP 樹脂関連製品の開発・製造
URL：http://www.f-kobunshi.co.jp



本社社屋（左）同社製品「ハイダップ®シート」（右上）
「ハイダップ®パネル」（右下）

DAP 樹脂を DAP 樹脂化粧板として初めて実用化に成功

1966 年（昭和 41）年、富士高分子株式会社は京都府南部に位置する城陽市寺田で創業。創業社長は長瀬弘氏で、東京理科大学を卒業後、東京大学生産技術研究所に研究生として 2 年間在籍した技術者だ。同社は、長瀬氏が研究者として身につけた含浸技術を活かし、NASA（アメリカ航空宇宙局）が宇宙ロケットの素材として採用したジアリルフタレート（通称 DAP）樹脂を“DAP 樹脂化粧板”として、初めて実用化に成功した。DAP 樹脂化粧板とは、特殊技術により化粧紙（印刷紙）に含浸加工したシート「ハイダップ®シート」を合板その他の基材に熱圧成型（プレス）を施し生産したパネル「ハイダップ®パネル」のこと。DAP 樹脂は、C（炭素）と O（酸素）と H（水素）から構成されており、N（窒素）含有物より発生するシアンガスなどの有害ガスを発生させないため、住宅関連商品、システムキッチンの扉や洗面台、住宅・自動車の内装材、楽器など幅広い分野に使われている。

高分子材料メーカーのリーディングカンパニー

同社の DAP 製品の国内シェアは 70% を占めており、4 代目の現社長である田代加平氏のもと業界のリーディングカンパニーとして成長を続けている。

同社の強みは、永年培ってきた含浸技術とプレス技術にある。DAP 樹脂だけでなく、フェノール樹脂、メラミン樹脂などの樹脂含浸を可能にする生産技術を有しているほか、接着剤を含浸したシートをプレス加工することで貼付作業をなくし、接着より安価での供給が可能。熱と圧力により両面を一気にダイレクト成型させる。合板をはじめパーティクルボード、ハードボード、ケイカル板、金属板など各種の基材に成形されており、様々な表面仕上げの製品が商品化されている。

さらに、少量多品種生産や短納期にも応える柔軟な生産体制を整えていること。特に営業では超短納期対応を売りにしている。これは田代社長が東京営業所長時代からの伝統である。顧客の多くが東京にあり、同社の工場は京都にあるため顧客は京都とのやり取りに時間のかかることを懸念するが、幅広く小回りの利く営業体制を売りにする。「納期やデリバリーすべてに関して、距離を感じさせない企業」が、当社のキャッチフレーズである。日本で DAP 樹脂を扱える企業は限られている。その中でも品質や納期といった点で同社の優位性は揺るがない。



DAP 樹脂の含浸工程（左）と無人プレス機（右）

技術・商品開発や人材教育で更なる飛躍を目指す

同社は、2016 年（平成 28 年）に創立 50 周年を迎え、社員一同更なる飛躍を目指している。多種多様な材料をコーティングやディッピングできる技術開発や、燃料電池や蓄電池等の新素材・ハイテク製品の開発と商品化に取り組んでいる。田代社長は『『できない』とは決して言わない。まず TRY する。あらゆる角度から可能性を追求する』よう呼びかけている。

約 20 年前から新入社員採用の会社説明会では、最初の 15 分間を田代社長自らが話している。当社への入社を求めるのではなく、就活に対する心構えをアドバイスする。自分はダイヤモンドの原石だと自信を持つこと、自分が入りたいと思った会社に自分を売り込むことなどである。「宝石は中から輝く。外から磨いただけではガラス玉だ」と田代社長は話す。

また、同社では全社員に「挨拶」と「報・連・相」を徹底させている。挨拶 3 カ条として「1. 元気な声で挨拶すること、2. 相手より先に挨拶

すること、3. 相手が返事をしなくても気にせず挨拶すること」を定めた。田代社長は「来訪された方に社員の挨拶がよいと褒められると非常に嬉しい」という。田代社長が信条としていることの一つに「Action now, Speed up more（すぐやる、早くやる）」がある。社員にも常に決断力とスピード感を持って行動するよう促す。2020 年 4 月には新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、政府より早く同社独自の「FK 緊急事態宣言」を発令。全社員の雇用確約や給与資金の確保を示した。不安要素の多い生活の中で安心して働いてもらいたいという経営層の思いが込められていた。

グローバル時代を生き抜くため海外進出を見据える

田代社長は、自身の 7 年半の台湾駐在経験が自分の視野を広げてくれたことを強く意識しており、若手・中堅社員を海外に派遣したいと考えている。現在、同社には海外駐在経験者が 3 名いるが、海外のノウハウを学び、信頼できるパートナーを見つけて同社の更なる発展に繋げたい意向だ。長瀬弘氏は、高分子業界で世界的に名を知られるような日本企業を目指すにあたり、海外の人にとって日本といえば「フジヤマ」と考え、富士高分子株式会社と名付けた。田代社長は「世の中はグローバル時代。ビジネスチャンスを求めてといった単純な視点ではなく、世界中の動きに目配りできることがこれからの企業経営に必要不可欠である。創業当初からグローバル指向であった初代の想いを引継ぎ、再度海外に飛び出すことは、我社にとって必須の課題だ」と将来を見据える。

（八木陽子、秋山利隆）



社員一同。創立 50 周年を記念して「富士高分子株式会社 激動の 50 年史」が発刊された